

いざという時、本当に助けとなるのは  
ご近所（助）の助け合いです。

平成27年2月15日  
せんげん支隊 情報・広報班

1年で最も寒い季節ですが皆様、お元気で過ごしのことと存じます。梅のつぼみが大分膨らんできました。ちらほらと咲きかけているのを見かけることもあります。もうすぐ春が来ます。頑張っこの寒さを乗り切りましょう。支隊便りも20号を発行することとなりました。今年もできる限り続けたいと思います。どうぞよろしくお祈いします。



## 1 1月の活動報告

- ① 1月17日（土）第10回支隊長会議
- ② 1月16日（金）防火・消火班専門会議
- ③ 1月20日（火）支隊便り第19号発行
- ④ 1月28日（水）町田市主催防災研修講座 「防災・減災活動、自助・共助・公助の役割」

## 2 2月の活動計画

- ① 2月14日（土）第11回支隊長会議
- ② 2月15日（日）支隊便り第20号発行
- ③ 2月1日（日）～2月28日（土）27年度支隊組織編成
- ④ 3月1日（日）南地区防災講演会（於：南センター 午後1：30～4：00）

## 3 支隊組織編成についてのお祈い

平成26年度も残すところ1ヶ月半となりました。2月中には27年度の体制（組織）を作り上げなくてはならないと考えています。つきましては、皆様に活動隊員になっていただくようご依頼に伺いますので、その節はお引き受けいただきますようお祈いします。

## 4 「防災隣組」－近助の精神

阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年、それ以外にも毎年どこかで震度6以上の大地震が起こっています。世界の陸地のわずか0.3%しかない国土の日本で、世界中で起こりうる地震の20.9%が集中的に起こっています。

防災システム研究所所長の山村武彦氏は、少子高齢化が進むほど、自らのいしで動けない人が増える一方。災害発生直後、要援護者から遠く離れたところにいる人が災害時要援護者を助けるために駆け付けられる可能性は極めて低い。阪神・淡路大震災では、家の下敷きになった自力脱出困難者は3万5000人、77%の人が家族や近隣住民に救出されている。いっぽう、死者の98%は災害発生後14分で亡くなっている。一刻も早く救助しなければ助からない。それができるのは近くにいる人だけである。

「近助」の精神による「防災隣組」をつくり、現代（高齢社会）に合った助け合いの仕組みを作ることがポイントである、と述べている。

## 5 あなたの家の防災度チェック（1）（チェックの入らない項目は見直しが必要です）

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 隣近所の人を知っていて、挨拶もしている。   | <input type="checkbox"/> 自分の地域の特性や危険度を知っている。        |
| <input type="checkbox"/> 自分の地域の避難場所（避難所）を知っている。 | <input type="checkbox"/> 避難場所（避難所）に行ったことがある。        |
| <input type="checkbox"/> 防災訓練に参加している。           | <input type="checkbox"/> 住宅の耐震診断を受けて、必要な補強をしている。    |
| <input type="checkbox"/> 家具は配置に気を付け、固定してある。     | <input type="checkbox"/> テレビ、パソコン、冷蔵庫も転倒・落下防止をしている。 |
| <input type="checkbox"/> 消火器があり、置き場所・使用法も知っている。 | <input type="checkbox"/> お風呂の水はいつも溜めている。            |